

職場の教養

5

2026
MAY

職場の教養

5月号

2026(令和8)年5月1日発行
(毎月1回)発行
第2巻9号 通巻500号

編集人 三浦貴史
発行人 和田毅

一般社団法人 倫理研究所
<https://www.rinri-jp.or.jp/>

本誌は非売品で、倫理研究所の法人会員に毎月無料で贈呈しています。入会のお申し込み、お問い合わせは、倫理法人会事務局へどうぞ。



テーマ **企業は人なり** — 経営者が変われば会社は変わる —

「企業は一将の影」と言われます。およそ事業は、経営者自身の思いや考え、その取り組み全ての結晶、といっても過言ではないでしょう。それは、社員、顧客、取引先等々との関係をはじめ、事業上のあらゆる面に影響を与えます。このように経営を左右するリーダーのあり方の源泉とは何でしょうか。私たち倫理法人会では、それを経営者の人間性であると捉えます。本講演会では、経営者をはじめ、共に事業を推し進める人たちの「人間力」に着目し、「企業は人なり — 経営者が変われば会社は変わる —」のテーマを掲げ、倫理経営の観点から事業繁栄のヒントを提案いたします。

倫理経営講演会は、1月～5月、経営者を対象に全国で開催中です。

お問い合わせは各倫理法人会事務局へ(本誌巻末掲載)

倫理経営講演会関連図書

『万人幸福の葉』により親しむために

純粋倫理のエッセンスが凝縮された「葉」には、汲めども尽きない味わいがあります。



新刊
十七カ条講話

丸山敏秋◎著

定価 1,500円(税込)
倫理研究所 B6判 346頁

目次より

- ◎ 気づきを大切に今を生きる
- ◎ 「生きがい」としての苦難
- ◎ 「鏡」に学び、天を師とする
- ◎ 金銭は欲望に反比例して集まる、他 *巻末に付論二編

所属

氏名

おかげさまで50周年



一般社団法人 倫理研究所

古くから食されてきたカツオは、日本では主に太平洋沿岸で漁獲されてきました。文献によれば、大和時代には加工品が朝廷に献納された記録もあり、日本の食文化において欠かすことのできない代表的な魚種のひとつといえます。

この時期、黒潮に乗って北上するものを漁獲し、水揚げされたものを「初ガツオ」と呼び、特に「初物」を好む江戸時代の人々には人気があったようです。ただし、傷みが早く冷蔵輸送のなかった当時は、様々な工夫がなされて消費地へ運ばれていたため、今とは違い非常に珍しく高価な物であったといえます。

カツオに限らず、私たちが現代の生活で当たり前前と思っていることも、その歴史を辿れば先人の努力や発明によって成り立っていることがたくさんあります。

慌ただしい毎日の生活の中ではなかなか難しいものですが、そうした「物事の由来を知る」という行為は、今の環境への感謝を深めることにつながります。

まずは、自分の住んでいる町や勤めている会社、今日一日の仕事で使う道具など、身近にある物事の由来を調べてみてはいかががでしょうか。

今日の心がけ◆身近な物への感謝を深めましょ

日本再発見! (後山(東日本編))

せんがんもり
千貫森
(福島県福島市)

UFOの基地、古代のピラミッド、かつて異星人と交流でける文明があった…等々、数々のオカルト的な噂がある標高462mの山。実際、古くからUFOの目撃例も多かったとされ、山は「UFOの里」として整備されている。「UFO(遊歩

二〇二六年も四カ月が経過しました。年頭に「今年は〇〇をする」と定めた目標や決意は、この四カ月の間に、どれほど実現へと近づけたでしょうか。

決意や目標を毎日声に出したり、目につくところに掲示したりして、日々取り組んでいる人もいるでしょう。一方で、時間の経過とともに、目標を立てたことすら忘れてしまった人もいるのではないのでしょうか。

年頭に目標を掲げたということは、「今より良くなりたい」という願望や、「こうなりたい」と思う理想像を思い描くなど、向上心が確かにあったはずですが、もし日々の仕事に追われ、当初の決意を忘れてしまっていたならば、この時期に改めて初志を思い出し、年頭の目標や決意を再確認してみましょう。

今日までの自分を振り返り、もし達成不可能な目標を設定していたと気づいたならば、現実在即した目標へと軌道修正すればよいのです。

「今できることしかできない」と心得て、小さな一歩を積み重ねることが大切です。その積み重ねが、なりたいたい自分へと確実に近づく力となるでしょう。

今日の心がけ◆目標を振り返りましょ

道)には、山頂までの距離を示す宇宙人像が並ぶ。頂上の「UFOコンタクトデッキ」で出会えるのは円盤ではなく、天井山や安達太良連峰の眺め。下山後は、登山口付近の「UFOふれあい館」の展望風呂で汗を流そう。



今日の心がけ◆敬いの心を持ちまじみじ

四月に新しく仲間に加わった社員の存在によって、社内に活発な雰囲気が生まれている職場も多いことでしょう。こうした好ましい環境をさらに良くするためには、立場にかかわらず学び合う相互啓発の心の姿勢を大切にしたいものです。教育哲学者の林竹二氏は、著書「教えるということ」の中で、「子供から学ぶことができるものだけが、子供を教えることができるのです」と記し、教育を可能にする根本の前提は、相手の生命への畏敬であると述べています。

まだ職場の環境に慣れていない新入社員にとって、ベテラン社員の温かな配慮と励ましは、働く上での大きな心の支えとなるはずです。

また、相手が新入社員であっても、スポーツの世界でいう「競技場に立てば皆対等」の精神にもとづき、後輩が話を一方的に聞くのではなく、積極的に自分の意見を伝えるなど、互いに交流する姿勢を忘れないようにしたいものです。

先輩は行動力を発揮すると共に後輩からも学び、後輩は進んで先輩から知識を吸収する姿勢を持つことで、風通しの良い職場へと変化していくはずです。

日本再発見! 一徳山(東日本編)-

ひわださん
日和田山
(埼玉県日高市)

標高305m、日高市の西部にあり、市のシンボルとして親しまれている。標識も設置され、整備された登山道には、休憩しやすい平坦な場所もある。初心者にもやさしい山だ。途中の一の鳥居で分岐があり、急傾斜の岩場を登る男坂、緩や

量子電磁力学の研究で知られるアメリカの物理学者リチャード・ファインマン氏は、一九一八年五月十一日に生まれました。

氏は卓越した研究能力を持つだけでなく、教育者としても優れており、さらには独創的な人物でもありました。氏の父親は常々、表面的な理解にとどまらず、物事の奥にある本質を見ることが大切さを語っていたといいます。

そんなファインマン氏は、ある書籍の中で学生に向けて、すでに結論が出ている問題であっても、自分自身でもう一度考えてみることの重要性を説いています。解決法が知られている問題でも、自ら考えることを繰り返せば、深い理解や新たな発見につながるのだと述べています。これは職場にも当てはまるでしょう。

例えばトラブルの対処法について、前例やマニュアルを開く前に、まずは自分ならどうするかを少しの間考えてみる、といった姿勢です。

意識的に自分で考えることを積み重ねることで、いざという時の判断力は確実に養われていくはずですよ。

今日の心がけ◆自分で考える時間を作りまじょう

かな傾斜が続く女坂にルートが分かれる。山頂では、彼岸花の群生で有名な巾着田方面を見下ろせる。山頂からは、高指山、物見山を経て、五常ノ滝に立ち寄りながら武蔵横手駅へ向かうハイキングコースが続く。



職場において、業務に関する情報共有を徹底することは、仕事の効率化につながり、ひいては組織全体の生産性を高めます。

情報が適切に伝わると、業務上の無駄や齟齬が生まれにくくなり、ミスやトラブルの防止になります。また、業務の担当が複数人にわたる場合、情報が共有されることで、担当者の一人が不在であっても柔軟な対応が可能となります。

さらに、職場内で個々のアイデアや思いなどが共有されることで信頼関係が深まり、協力的体制を築きやすくなります。それによって、相談や意見交換が活発になり、職場全体の雰囲気にも良い影響を与えるでしょう。

情報の共有は、組織の成長や改善につながります。現場での気づきや成功事例が全体に浸透することで、他の部署においても、より業務を効率的に進めることができます。そうした積み重ねが組織全体を向上させていきます。

まずは、自分自身が日頃から必要な情報を相手に分かりやすく伝えることが大切です。それが結果として職場全体をより良いものにしていくのです。

今日の心がけ◆必要な事柄を分かりやすく伝えましょう

Oさんが通勤途中に通る公園では、五月になるとツツジが一斉に咲き始めます。冬の間は枝だけだった植え込みが、鮮やかなピンクや白で彩られ、季節の移ろいを知らせてくれます。

ある日、Oさんが通勤途中で公園を通ると、ツツジは満開でした。例年は五分咲き、七分咲きと咲き進む変化を楽しんでいましたが、この年は満開になって初めて気づき、変化に目を向ける余裕がなかったことを感じたのです。

職場に目を移しても、Oさんは、後輩が作る報告書が以前より丁寧になっていたり、同僚がさりげなく周囲に声をかけるようになっていたりなど、こうした小さな変化を見落としていることに思い至りました。

変化に気づき、それを言葉にして相手に伝えることは、職場の風通しを良くすると共に、互いの成長を認め合うきっかけにもなります。

変化は、必ずしも大きな音を立てて起こるわけではありません。だからこそ、Oさんは目を止める心の余裕を持ち続けたいと思います。

今日の心がけ◆ささやかな変化に目を向けましょう



今日の心がけ◆先手で明るく挨拶しましょう

Fさんは、駅から会社へ向かう道で、清掃ボランティアの人たちに出会うことがあります。ごみを拾い、黙々と道を整える姿に触れるたび、街が清潔に保たれているのは、こうした地道な努力のおかげだと感謝の思いが湧いてきます。

ある日、作業をしていたボランティアの人から明るく挨拶をされました。Fさんも返しましたが、(年上の方から先に声をかけてもらうのは、どこか申し訳ない)という気持ちが次第に芽生えてきました。

そこで、自分の方から挨拶しようとしたものの、いざ声を出そうとすると照れが勝ってしまい、結局いつも相手から声をかけられる状態が続いていました。

ある朝、思い切って自分から挨拶をすると、ボランティアの人たちはいつも以上に明るく応えてくれました。その瞬間、Fさんの胸のつかえが取れました。

こうした経験を通じてFさんは、自分から動くことで場の空気を温め、人との距離を縮めることができる実感したといえます。先手で明るく挨拶をすることは、自分を成長させ、周囲との関係をより良くする第一歩だと気づいたのです。

今日の心がけ◆情報を吟味しましょう

社会では様々な分野の情勢や動向、新しい流行が話題にのぼります。これから広がる兆しのある動向や流行を「トレンド」と呼び、「今、世の中で注目される流れ」や「多くの人が関心を寄せること」を意味します。

国内外の流行や最新技術、政治・経済の動きを素早く捉え、必要な情報を収集することは、どのような仕事においても欠かせません。

集めた情報を活かすために大切なのが「吟味」です。吟味とは、内容を詳しく調べ確かめることであり、収集した情報にもこの過程が求められます。

情報の真偽を確かめた上で、自分の仕事や生活に役立つかどうかを考えてみましょう。役立つ形で活用してこそ、その情報が「活きる」のです。

さらに、情報の有用性が社会全体に広がるかどうかにも思いを巡らせることで、新しい事業や製品につながる可能性も生まれます。トレンドを掴み損ねればチャンスを逃し、逆に流れに振り回されれば本質を見失います。

だからこそ、世の動きを鋭く捉え、その意味を丁寧に考えていきたいものです。

日本再発見! (徳山(東日本編))

金華山
(岐阜県岐阜市)

戦国時代、斎藤道三が居城とし、のちに織田信長が落城させ天下統一の拠点にするなど、歴史の大舞台となった岐阜城(稲葉山城)。この城が建つのが、岐阜市中心部にある標高329mの金華山だ。城までは10の登山道が整備されてお

り、比較的緩やかな七曲り登山道は約1.9km、約1時間の道のりだ。岐阜公園と頂上付近を結ぶロープウェイからは、金華山と長良川を眺めることも。岐阜城復元天守にある展望台からの眺めも絶景だ。

